



昭和の町に ボンネットバスが復活!!

職人の“こだわり”で完成した『いすゞBX141』をご紹介します



35年以上眠っていたボンネットバス。穴と錆だらけのボディが痛々しいですね。



屋根灯(別称マーカーランプ、ロケット)
前部5個・後部2個のすべてを新材の鉄板により手作業で三次曲線に形づくる



側面の引き違い窓・上げ下げ窓
傷みの激しかった下部等に新材の鉄板を補い、オリジナルどおりの形状に修復



方向幕
透光性のある白色フィルムで作成



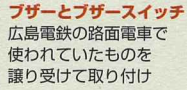
計器(メーター)
もともと付いていたものを修理し、動きの悪い計器についてのみ現行品を別付け



窓用ゴム
側面の引き違い窓・上げ下げ窓の取り付けに必要なゴムの多くに既製品で合うものがなく、特注



リアエンブレム
失われていたリアエンブレムをいすゞオリジナルの配色により復元



プザーとプザースイッチ
広島電鉄の路面電車で使われていたものを譲り受けて取り付け



フロントエンブレム
いすゞオリジナルの七宝の施されたエンブレムを取り付け



フロントグリル下部のモール
ステンレスにより手作業で形づくる



フロントバンパー等のメッキ
ラジエーターキャップ、フロントエンブレムまわりのモール・飾り類、ヘッドライト・リム、スモールライト・リム、車幅ポール等にクロムメッキを施す



タイヤ
オリジナルどおりの7.50-20バイアスタイヤを履く



原動機(エンジン)
もともと搭載されていたDA110が修理不能であったため、次型式のBX341のものと同型のDA120を整備し搭載



車体内面
車体内面の鉄板の合わせ目に「パイビン」と呼ばれるビニール製品を挟み込み、鉄板の小口を玉縁状に覆う



ワイパーモーター・アーム・ブレード
それぞれデンソー製の新品を取り付け



ヒーター
現在では製造されていないデンソー製の新品を取り付け



座席
温かみと懐かしさのあるモケット張りとし、前部は横向き、後部は前向きの配置



木の板張りの床
温かみと懐かしさのある木の板張りの床

レストア職人 榎茂 (えのきしげる)/70歳

今まで手がけてきた中で、一番こだわり抜いた忘れられないバスができました。まさに、このボンネットバスは自分の娘のようなもの。手塩をかけて一生懸命育てて(復元して)きたので、未永く大事に使ってほしい。豊後高田に嫁入りしてもみんなに愛されるバスであってほしい。

いすゞ ボンネットバス		いすゞ BX141の来歴	
型式	BX141	昭和32年	いすゞ自動車株式会社において車台が製造される 車台番号「57-BX140-411617」
年式	1957年式(昭和32年)		株式会社北村製作所(新潟市)において車体が製造される
全長	8,310mm		羽後交通株式会社(秋田県横手市)が購入 登録番号「秋2あ0155」
全幅	2,430mm		抹消登録
全高	2,960mm	昭和44年	秋田県大仙市内に遺存
再生	福山自動車時計博物館(2009年)	平成18年まで	福山自動車時計博物館が譲り受ける
		平成19年	7月18日 昭和の町に復活
		平成21年	